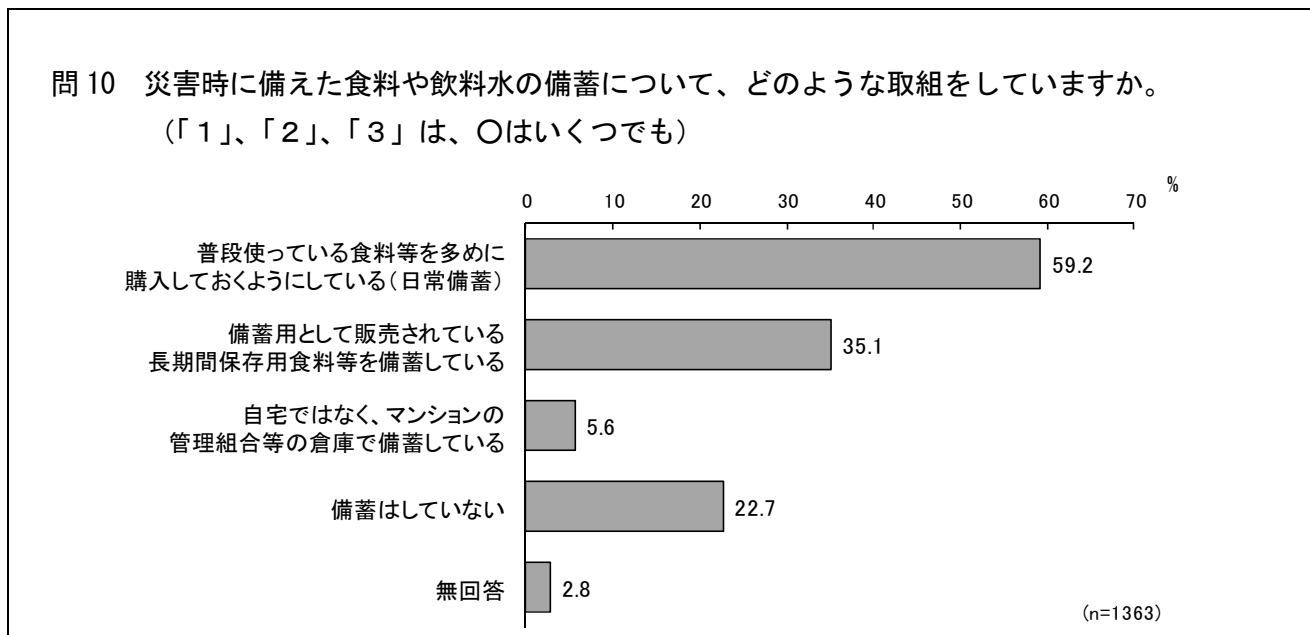


## 4. 防災対策

### (1) 災害時に備えた食料や飲料水の備蓄

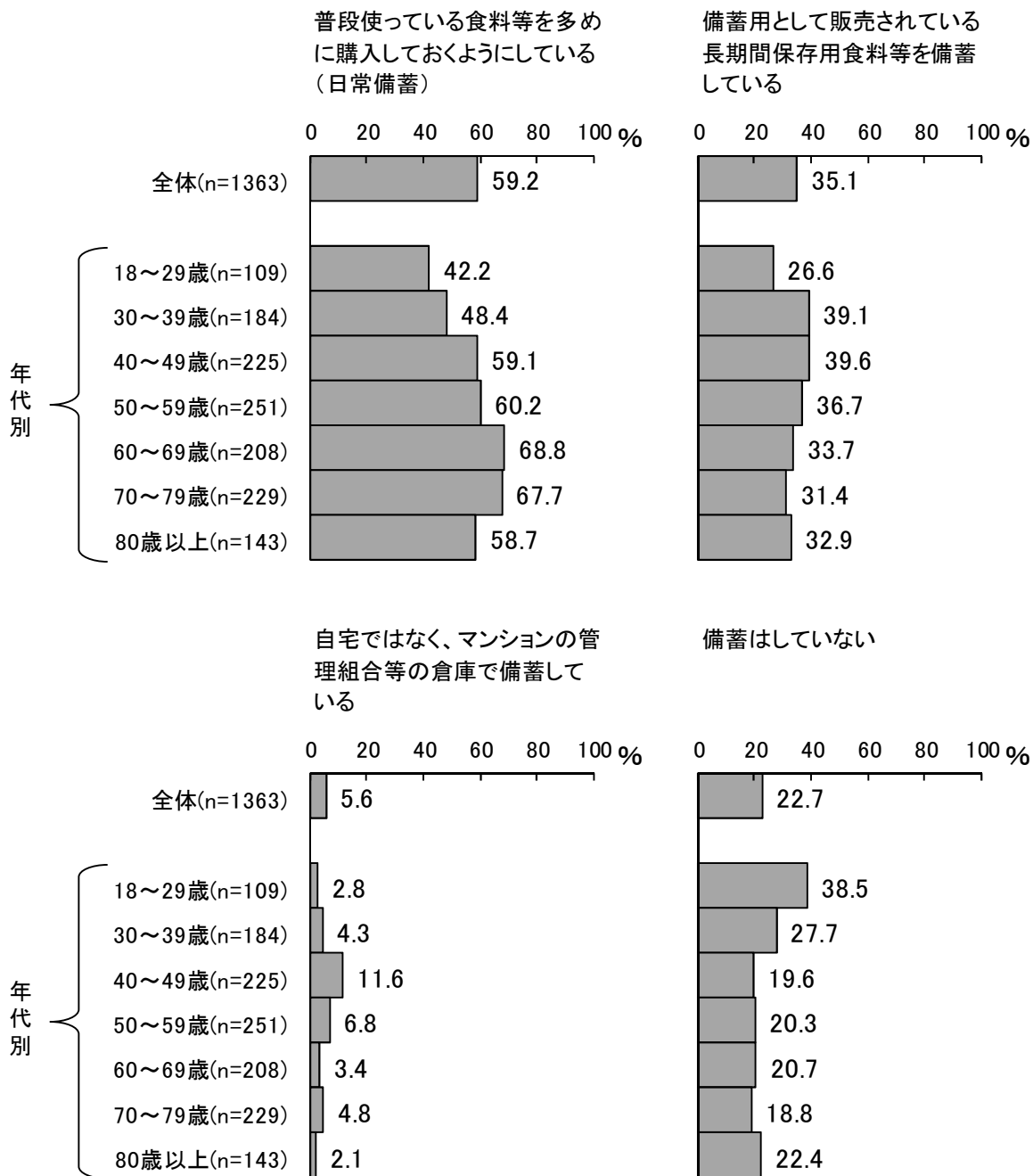
◇「普段使っている食料を多めに購入しておくようになっている（日常備蓄）」が6割弱



災害時に備えた食料や飲料水の備蓄について聞いたところ、「普段使っている食料を多めに購入しておくようになっている（日常備蓄）」（59.2%）が6割弱で最も多く、次いで「備蓄用として販売されている長期保存用食料等を備蓄している」（35.1%）が3割半ばとなっている。

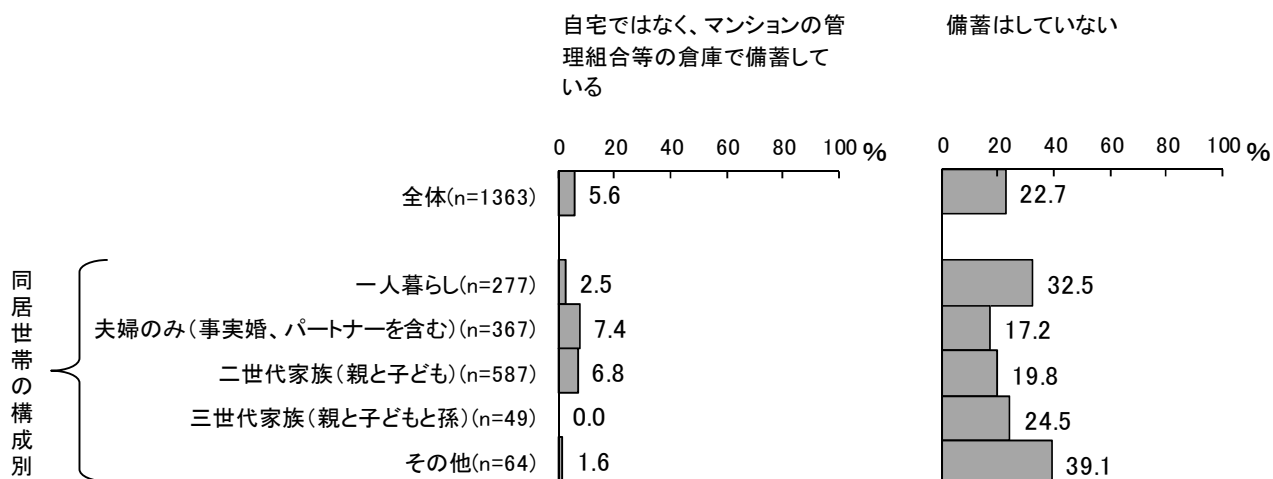
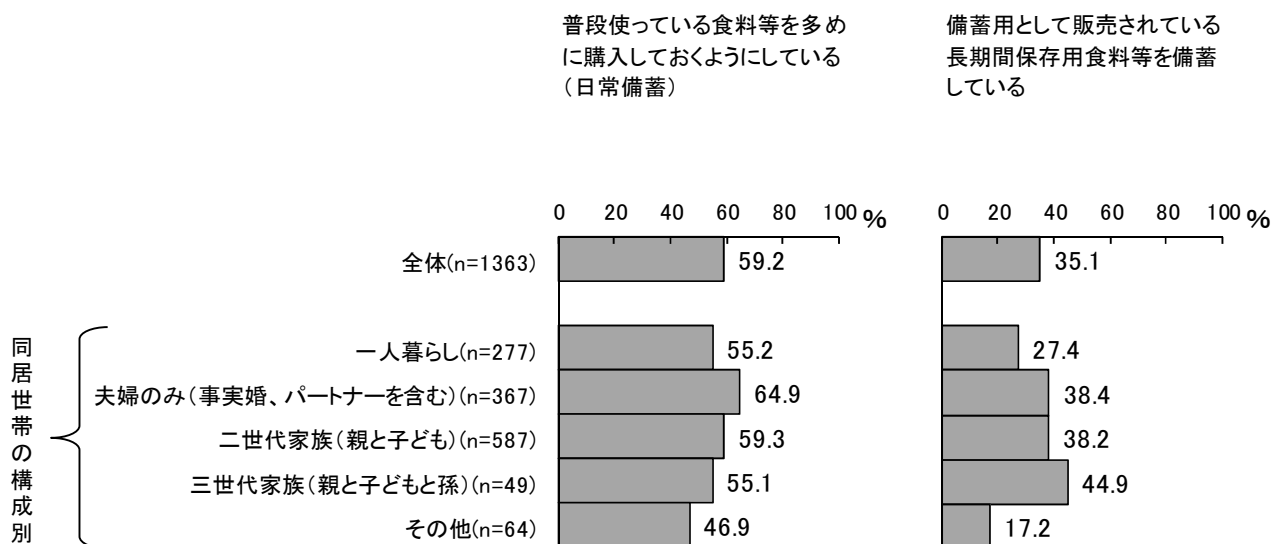
年代別でみると、「普段使っている食料を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」は18～29歳（42.2%）が最も低く、60～69歳（68.8%）が最も高くなっている。「備蓄していない」は18～29歳（38.5%）が最も高くなっている。

### 災害時に備えた食料や飲料水の備蓄 年代別



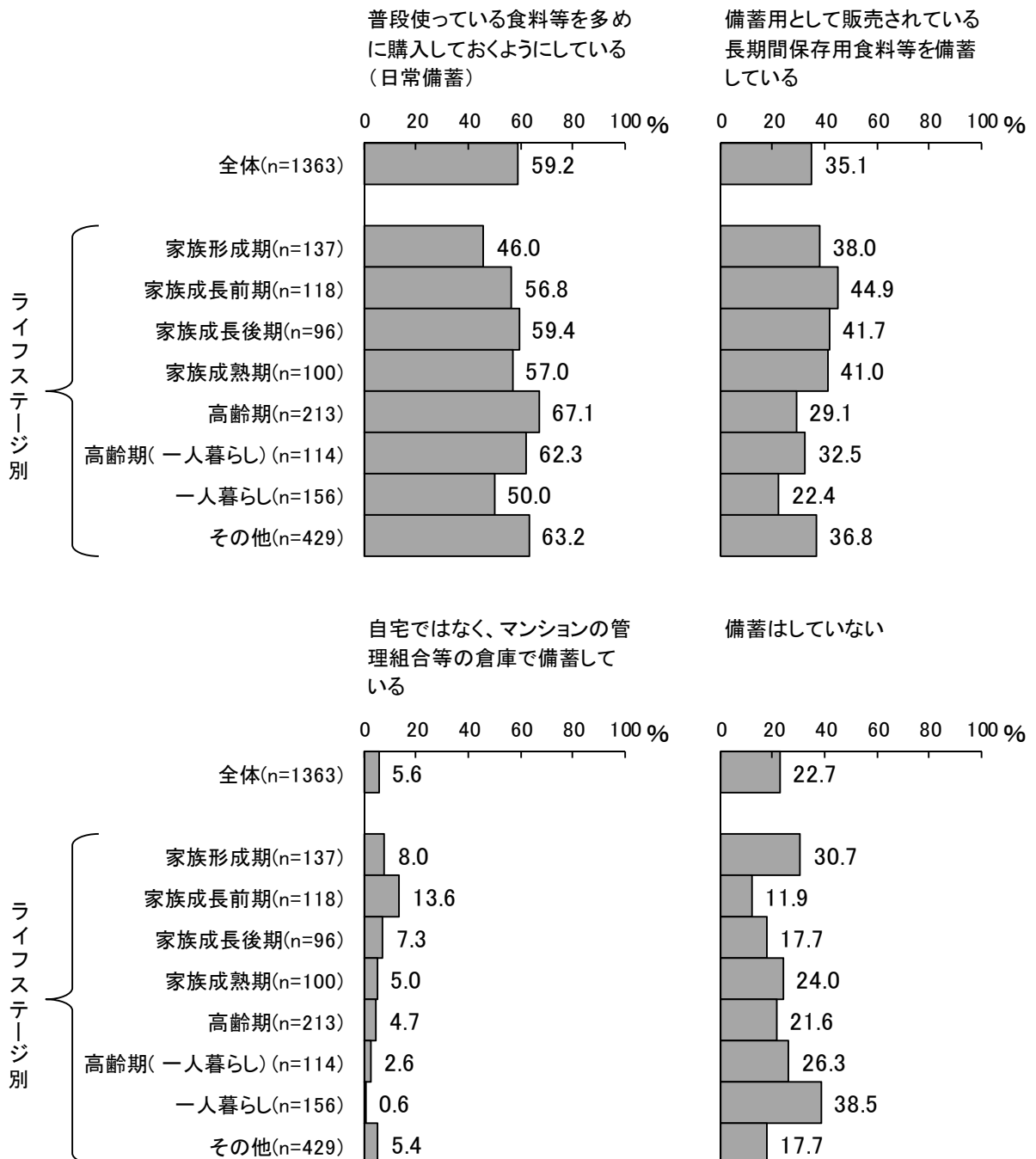
同居世帯の構成別でみると、「普段使っている食料を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」は夫婦のみ（事実婚、パートナーを含む）（64.9%）が6割半ば近くと最も高くなっており、「備蓄はしていない」は一人暮らし（32.5%）が3割強と高くなっている。

### 災害時に備えた食料や飲料水の備蓄 同居世帯の構成別



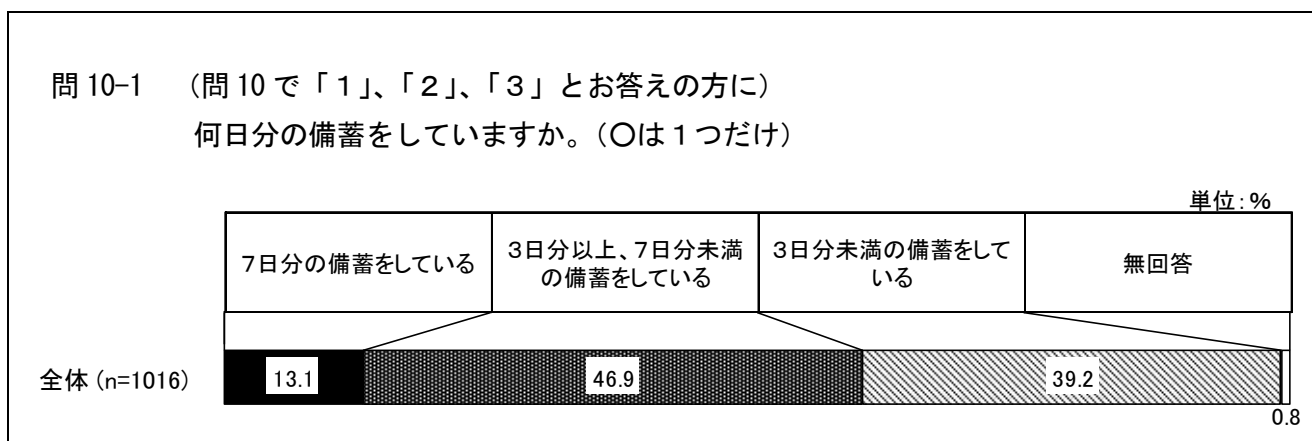
ライフステージ別でみると、「普段使っている食料を多めに購入しておくようになっている（日常備蓄）」は高齢期（67.1%）、高齢期（一人暮らし）（62.3%）が6割を超えて比較的高くなっている。「備蓄はしていない」は一人暮らし（38.5%）が4割近くと高くなっている。

### 災害時に備えた食料や飲料水の備蓄 ライフステージ別



(1-1) 災害時に備えた備蓄の量

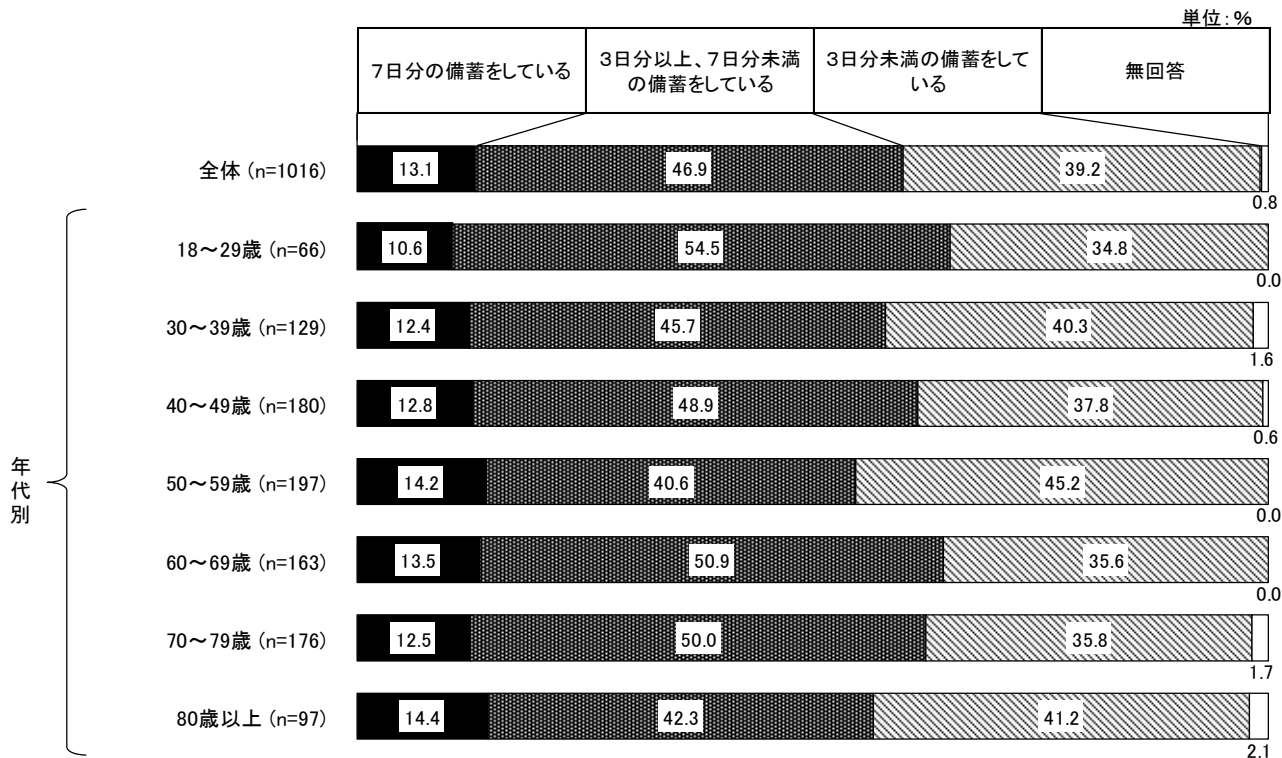
◇「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」が4割半ばを超え



災害時に備えた備蓄の量について聞いたところ、「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」(46.9%)が4割半ばを超え最も高く、次いで「3日分未満の備蓄をしている」(39.2%)、「7日分の備蓄をしている」(13.1%)と続いている。

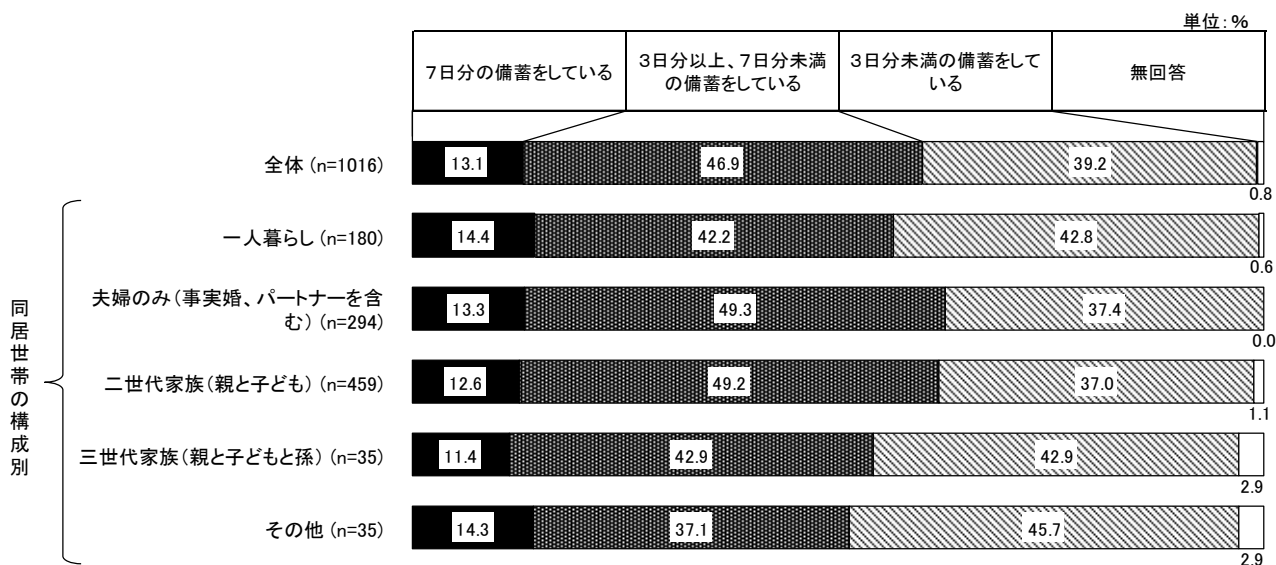
年代別でみると、「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」は18～29歳（54.5%）、60～69歳（50.9%）、70～79歳（50.0%）で5割を超えている。「3日分未満の備蓄をしている」では、50～59歳（45.2%）が4割半ばと最も高くなっている。

災害時に備えた備蓄の量 年代別



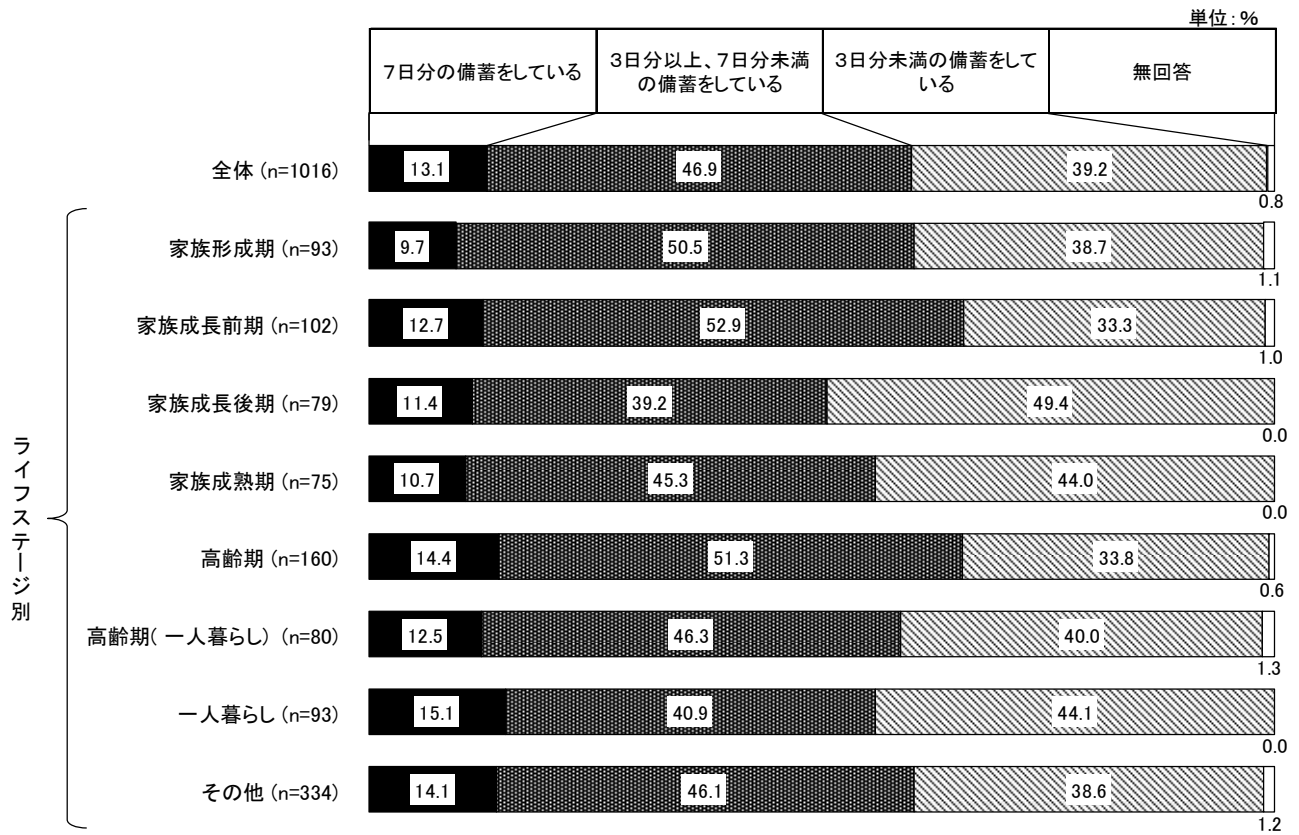
同居世帯の構成別でみると、「3日分未満の備蓄をしている」は三世代家族（親と子どもと孫）（42.9%）、一人暮らし（42.8%）で4割強と高くなっている。

災害時に備えた備蓄の量 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、「7日分の備蓄をしている」は家族形成期（9.7%）を除く全てのライフステージで1割を超えている。

災害時に備えた備蓄の量 ライフステージ別

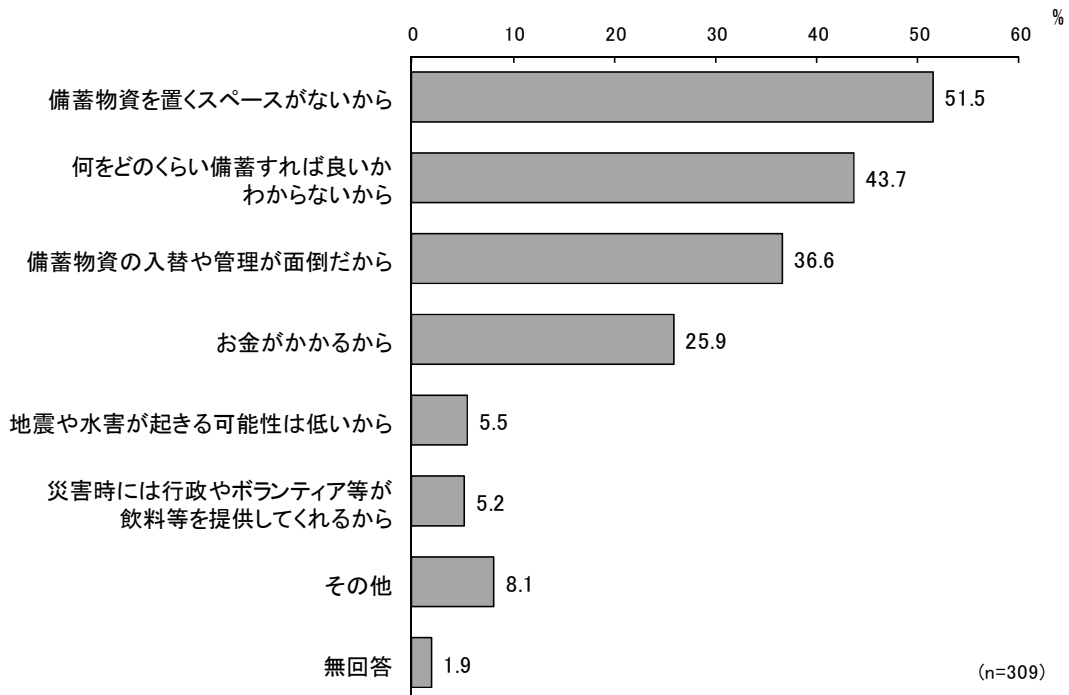


(1-2) 備蓄を行っていない理由

◇「備蓄物資を置くスペースがないから」が5割強

問10-2 (問10で「4 備蓄していない」とお答えの方に)

食料や飲料水の備蓄を行っていない理由について次の中から当てはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

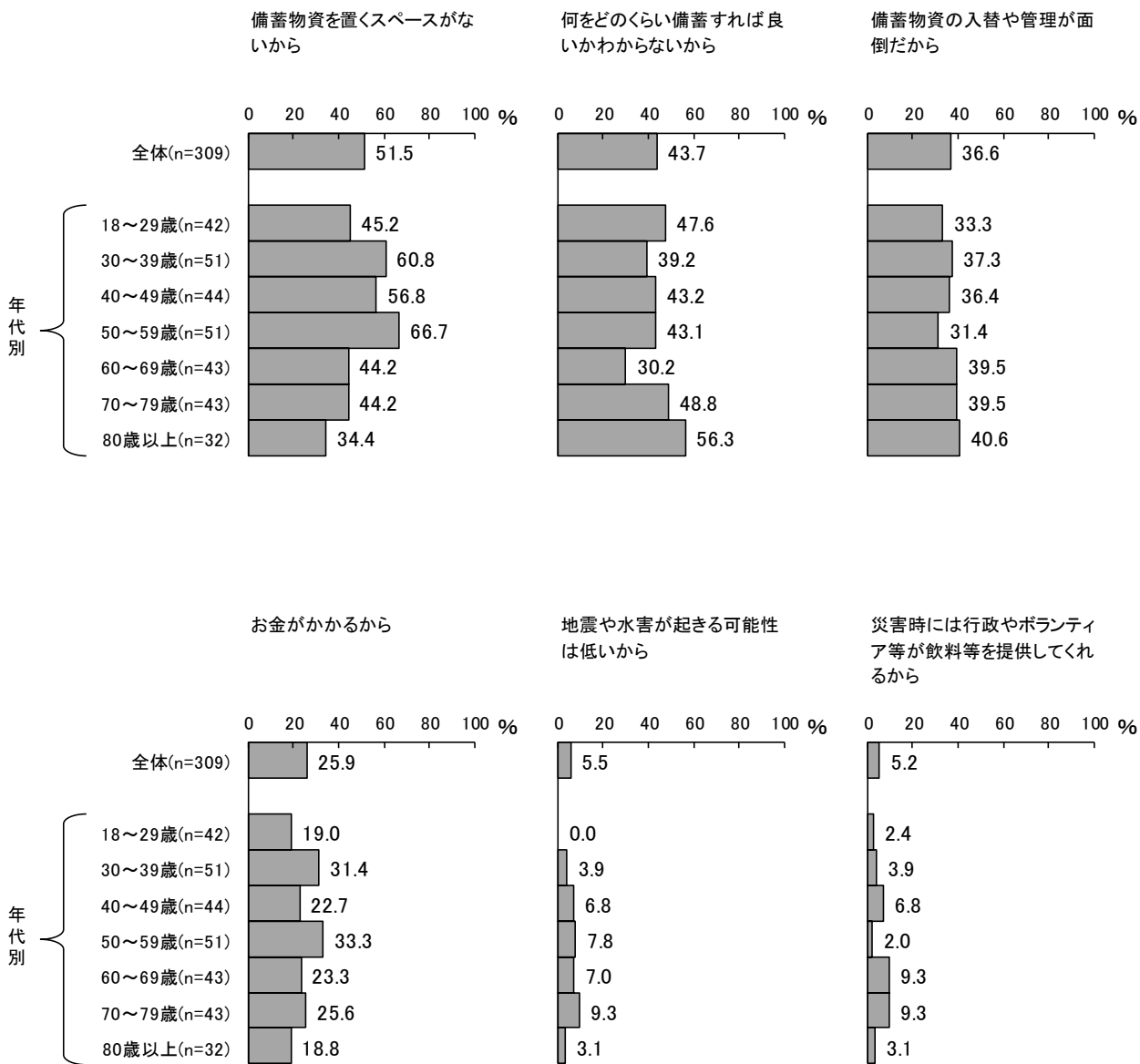


備蓄を行っていない理由について聞いたところ、「備蓄物資を置くスペースがないから」(51.5%)が5割強で最も高く、次いで「何をどのくらい備蓄すれば良いかわからないから」(43.7%)、「備蓄物資の入替や管理が面倒だから」(36.6%)が続いている。



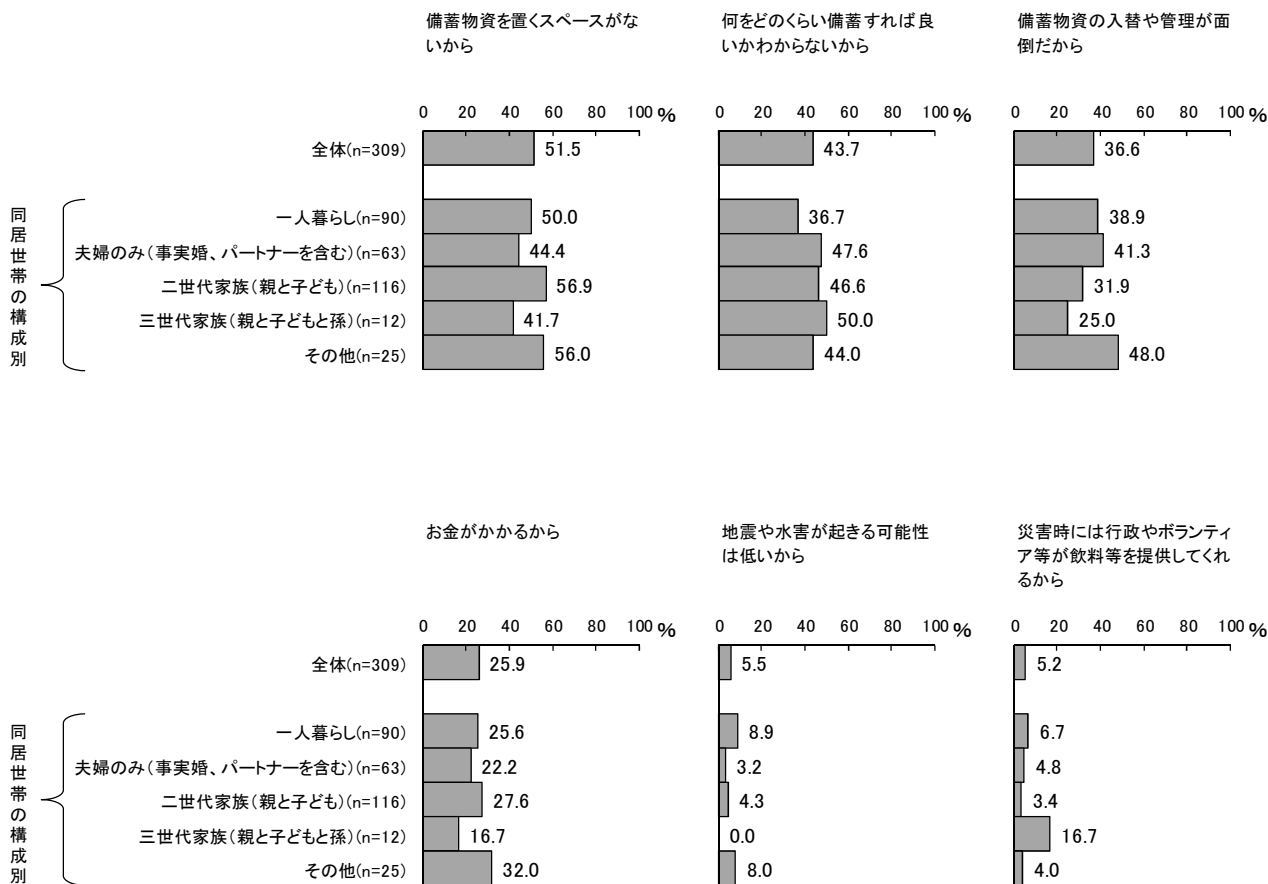
上位6項目を年代別で見ると、「備蓄物資を置くスペースがないから」では、50～59歳（66.7%）が6割半ば超えで最も高く、次いで30～39歳（60.8%）が6割で続いている。

### 備蓄を行っていない理由（上位6項目） 年代別



上位6項目を同居世帯の構成別でみると、「備蓄物資を置くスペースがないから」では二世世代家族(親と子ども) (56.9%) が5割半ばを超え、「備蓄物資の入替や管理が面倒だから」では夫婦のみ(事実婚、パートナーを含む) (41.3%) が4割強で高くなっている。

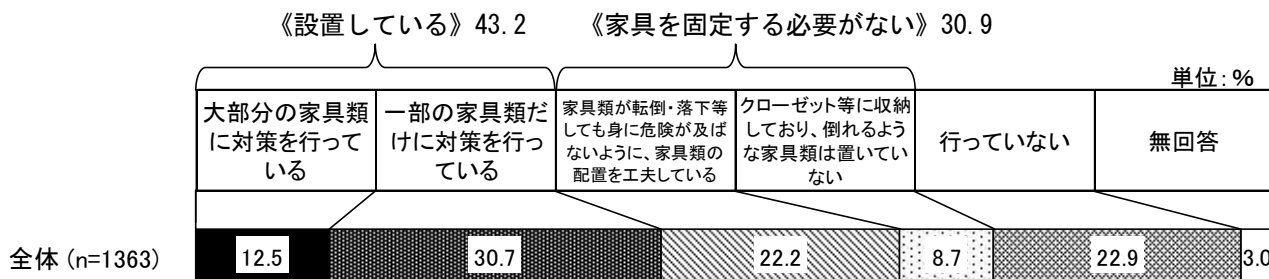
### 備蓄を行っていない理由(上位6項目) 同居世帯の構成別



(2) 家具の転倒・落下防止

◇ 《設置している》が4割半ば近く、《家具を固定する必要がない》が3割

問11 あなたの家では、地震に備え、家具類の転倒・落下・移動防止対策器具の設置を行っていますか。(○は1つだけ)



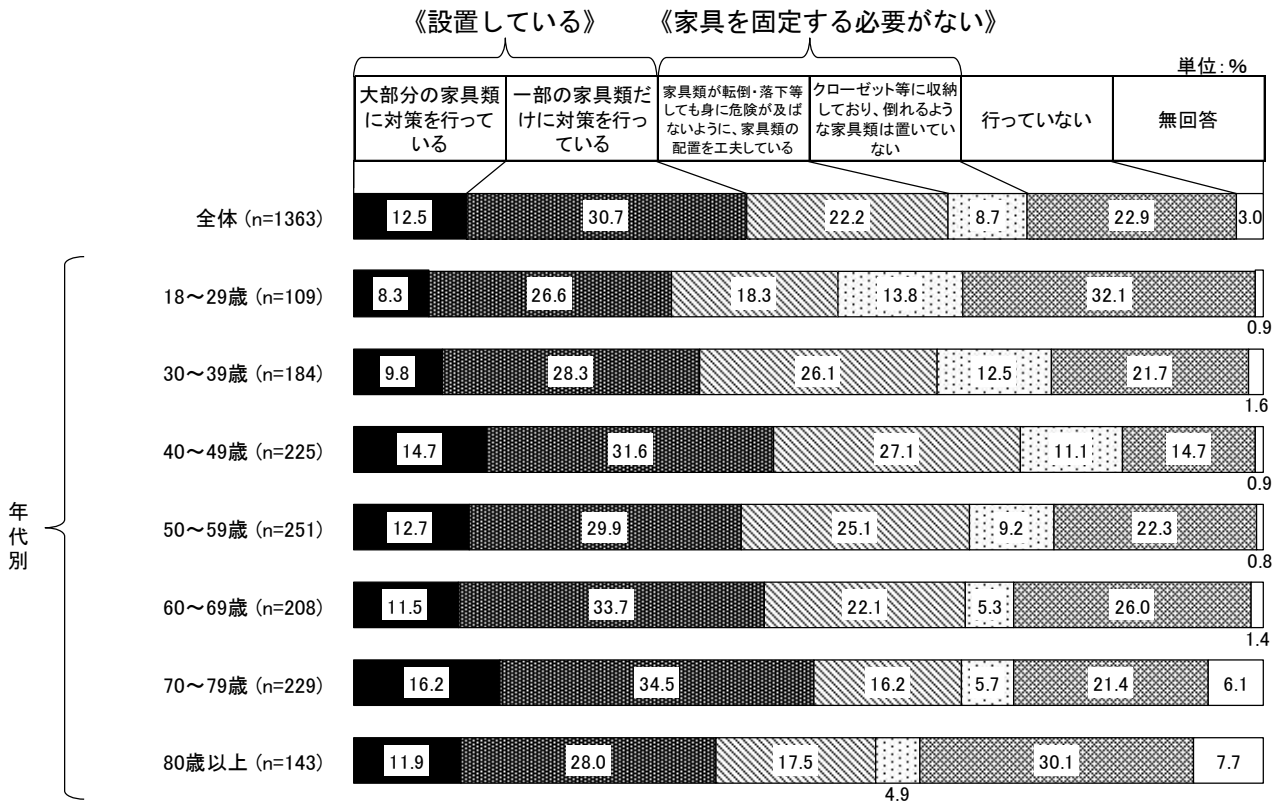
(注) 《設置している》 = 「大部分の家具類に対策を行っている」 + 「一部の家具類だけに対策を行っている」

《家具を固定する必要がない》 = 「家具が転倒・落下しても身に危険が及ばないように、家具等の配置を工夫している」 + 「クローゼット等に収納しており、倒れるような家具類は置いていない」

家具の転倒・落下防止について聞いたところ、「一部の家具類だけに対策を行っている」(30.7%)が3割で最も高く、「大部分の家具類に対策を行っている」(12.5%)を合わせた《設置している》(43.2%)は4割半ば近くとなっている。「家具が転倒・落下等しても身に危険が及ばないように、家具類の配置を工夫している」(22.2%)、「クローゼット等に収納しており、倒れるような家具類は置いていない」(8.7%)を合わせた《家具を固定する必要がない》(30.9%)は3割となっており、《設置している》と合わせると74.1%で7割半ば近くとなっている。一方で「行っていない」(22.9%)は2割強となっている。

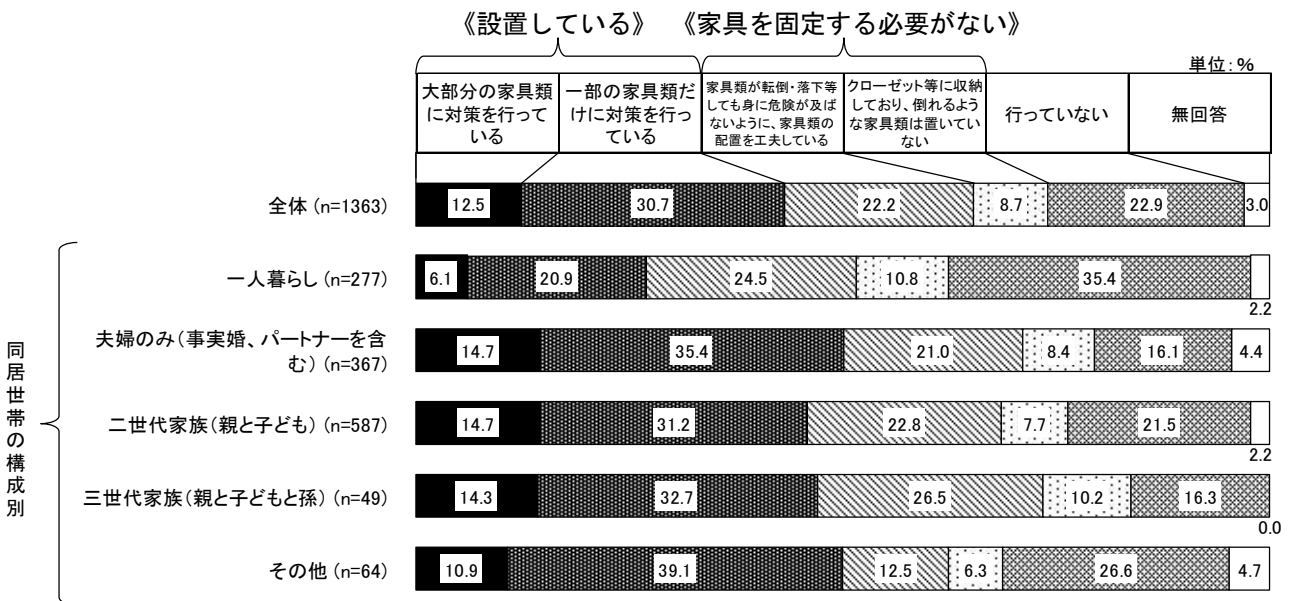
年代別でみると、《設置している》は70～79歳（50.7%）が5割で最も高く、18～29歳（34.9%）が3割半ば近くで最も低い。「行っていない」は18～29歳（32.1%）、80歳以上（30.1%）で3割台と高くなっている。

### 家具の転倒・落下防止 年代別



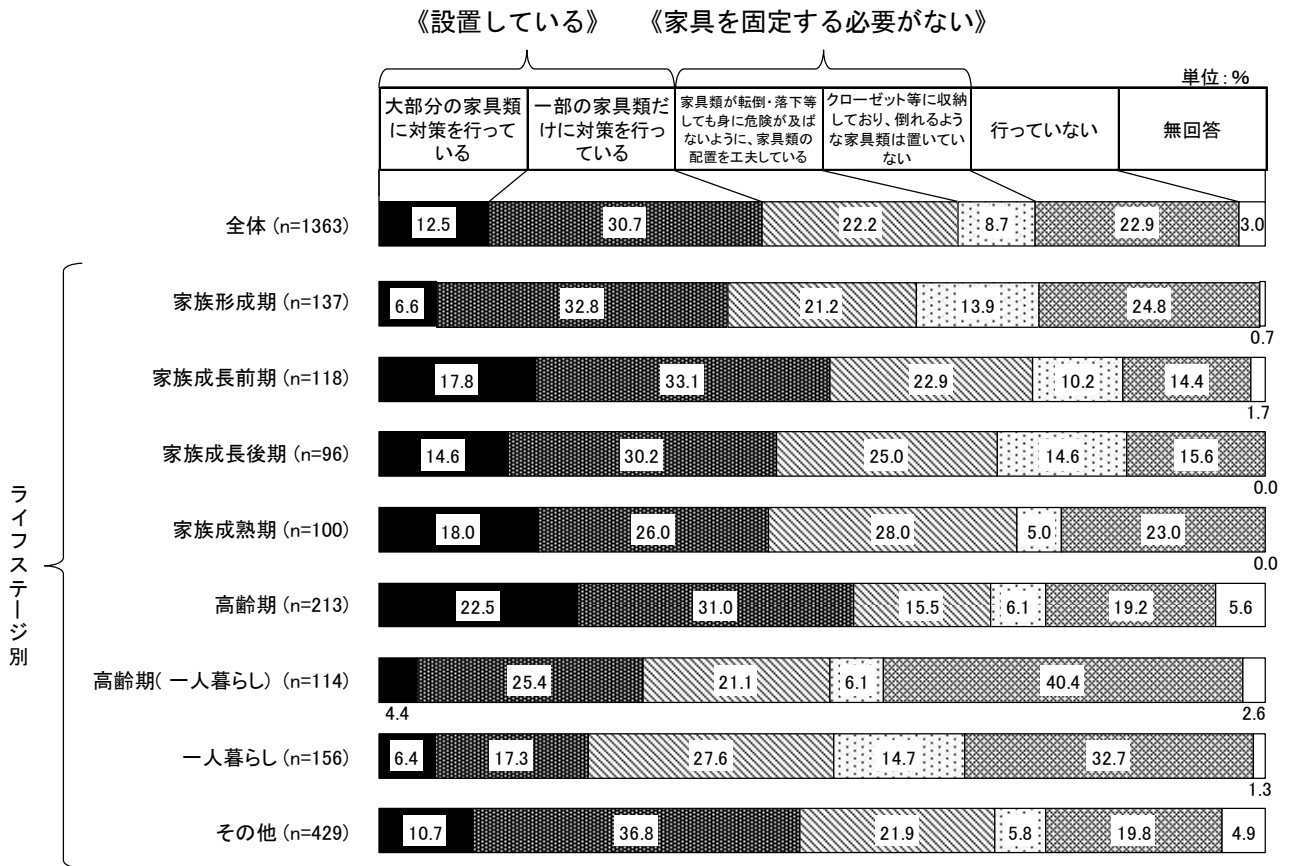
同居世帯の構成別でみると、《設置している》では夫婦のみ（事実婚、パートナーを含む）（50.1%）が5割で最も高くなった。一人暮らし（27.0%）は唯一3割に満たないが、一方で《家具を固定する必要がない》（35.3%）は3割半ばと他と比べて比較的高くなっている。

### 家具の転倒・落下防止 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、《設置している》では高齢期（53.5%）が5割半ば近くで最も高く、高齢期（一人暮らし）（29.8%）と一人暮らし（23.7%）の《一人暮らし》が他に比べて低くなっている。

### 家具の転倒・落下防止 ライフステージ別



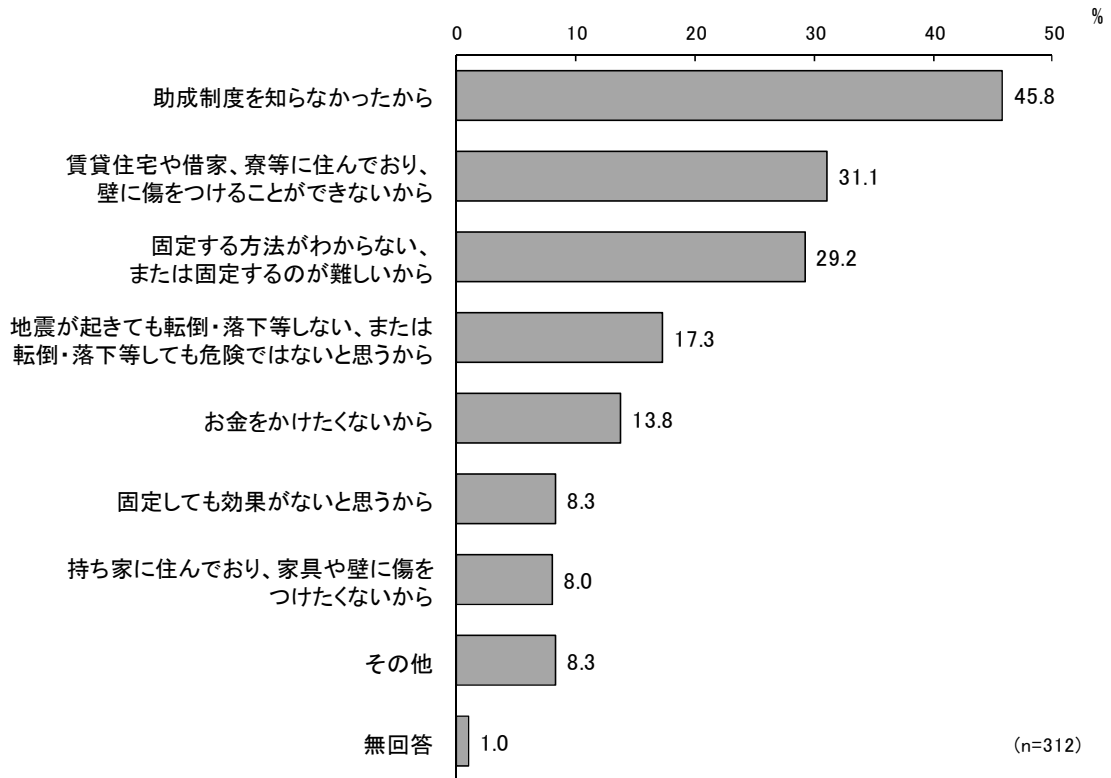
(2-1) 家具の転倒・落下防止器具の未設置理由

◇「助成制度を知らなかったから」が4割半ば

(問11で「5 行っていない」とお答えの方に)

問11-1 区で家具類の転倒・落下・移動防止対策器具の設置に5千円～2万円(条件有)の助成金が出る制度がありますが、設置を行っていない理由を教えてください。

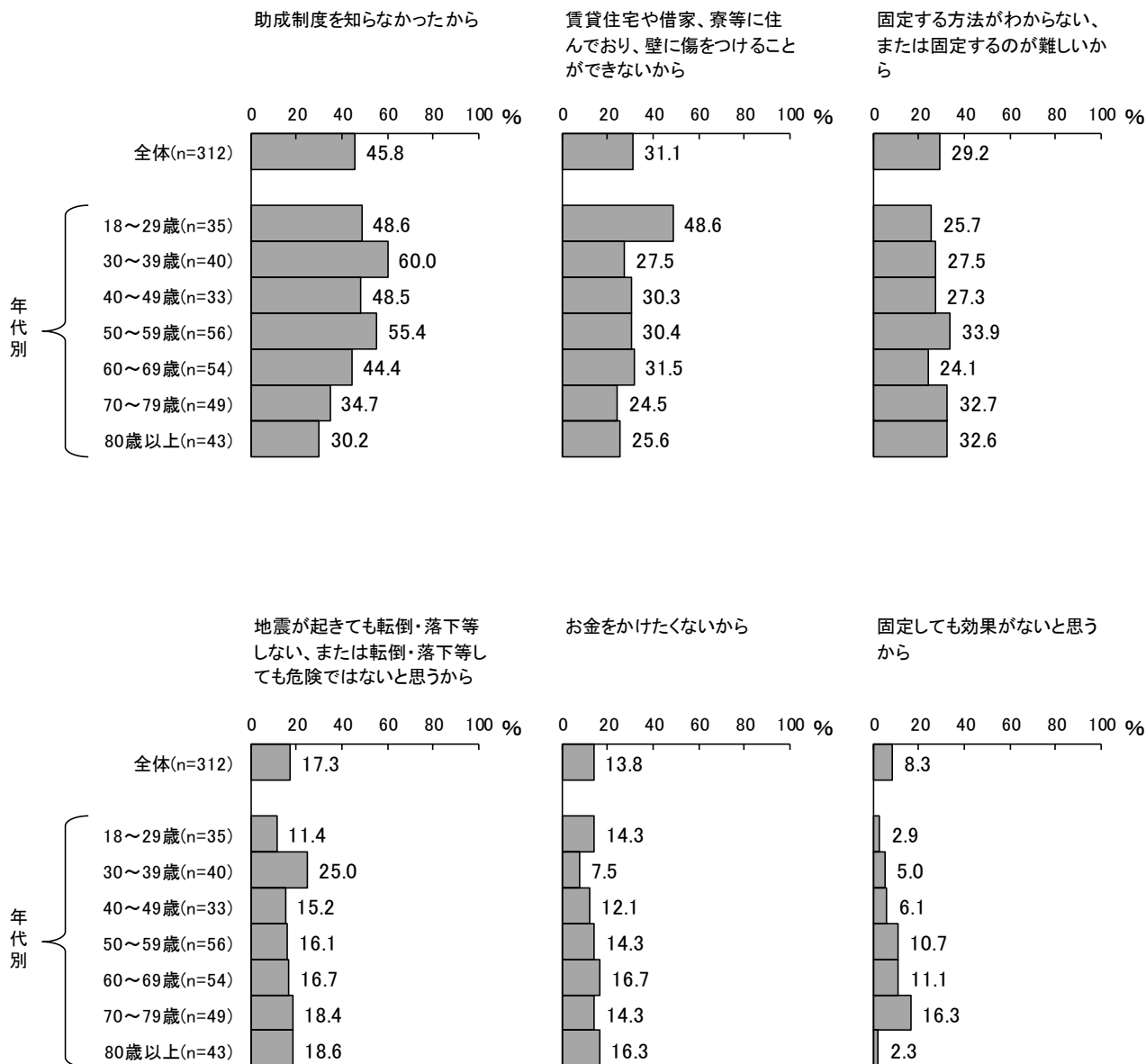
(〇はいくつでも)



家具の転倒・落下防止器具の未設置理由について聞いたところ、「助成制度を知らなかったから」(45.8%)が4割半ばで最も高く、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」(31.1%)が3割強でこれに次いでいる。

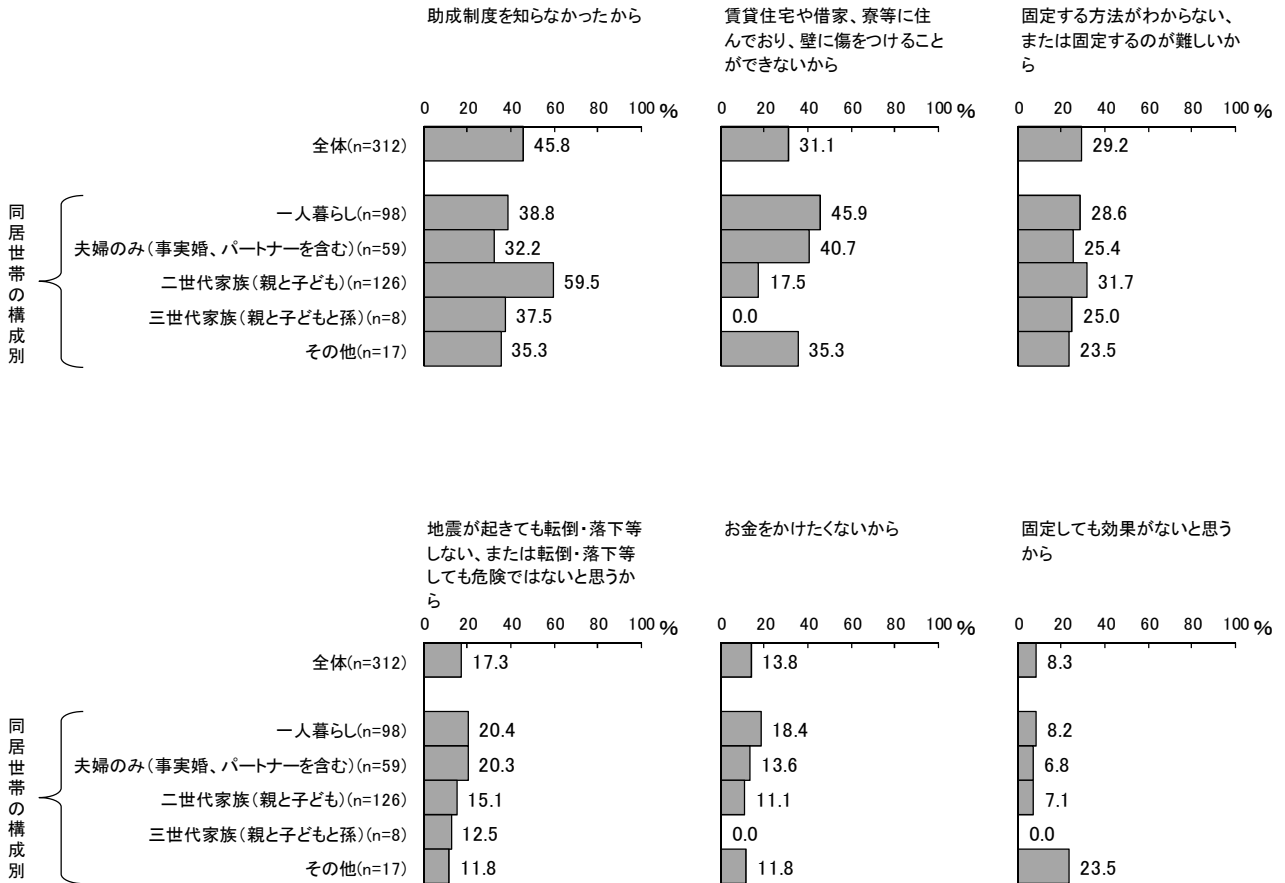
上位6項目を年代別で見ると、「助成制度を知らなかったから」では30～39歳（60.0%）が6割で最も高く、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」では、18～29歳（48.6%）が5割近くで最も高くなっている。

### 家具の転倒・落下防止器具の未設置理由（上位6項目） 年代別



上位6項目を同居世帯の構成別でみると、「助成制度を知らなかったから」では二世世代家族（親と子ども）（59.5%）が6割弱、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」では一人暮らし（45.9%）が4割半ばと、それぞれ最も高くなっている。

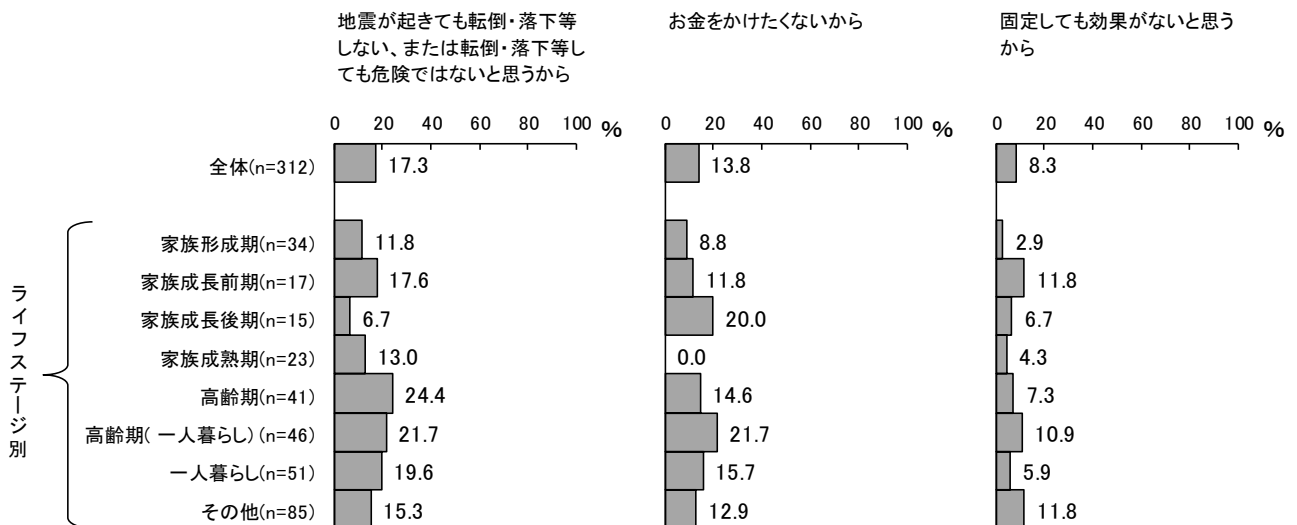
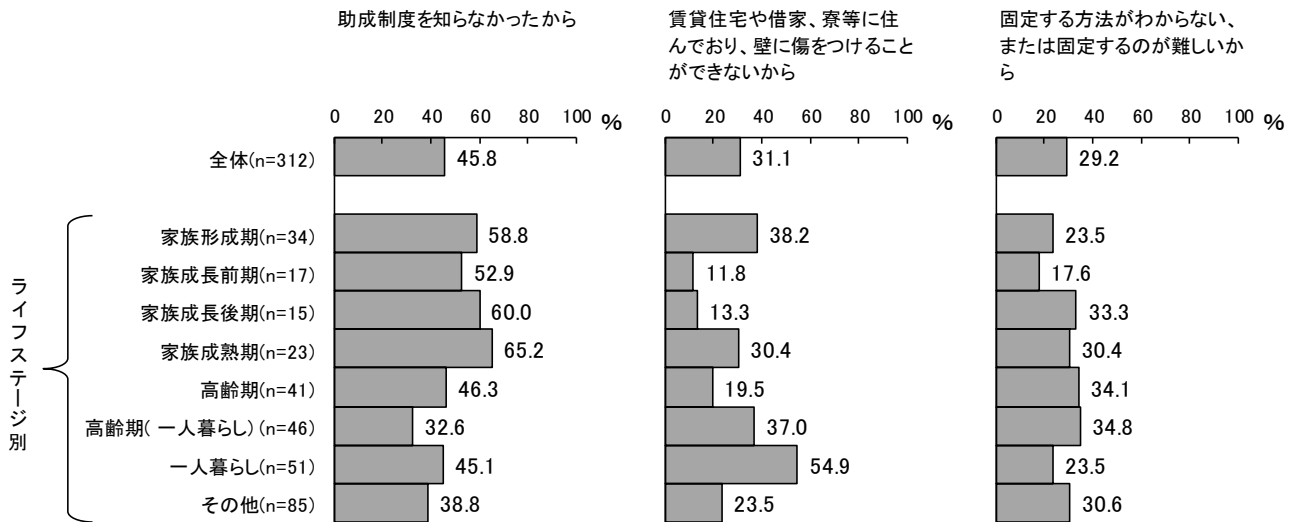
### 家具の転倒・落下防止器具の未設置理由（上位6項目） 同居世帯の構成別





上位6項目をライフステージ別で見ると、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」では一人暮らし（54.9%）が5割半ば近くで最も高くなっている。

### 家具の転倒・落下防止器具の未設置理由（上位6項目） ライフステージ別

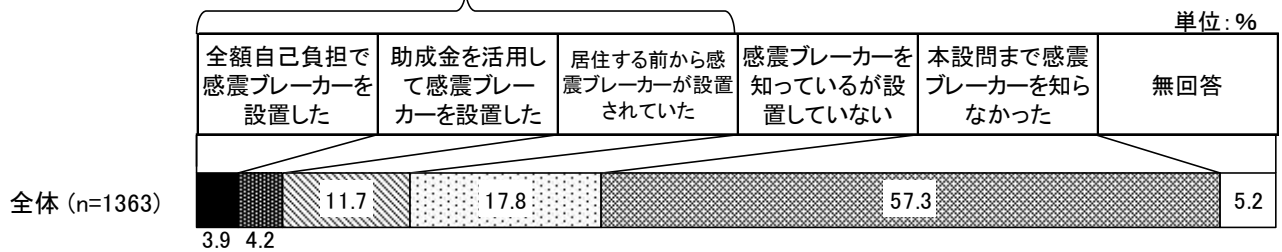


(3) 感震ブレーカーの設置状況

◇ 《設置している》は2割弱

問 12 地震発生時の通電火災を防ぐために、強い揺れを感知した時に電気を自動的に止める「感震ブレーカー」という装置の設置状況についてお答えください。(○は1つだけ)

《設置している》19.8

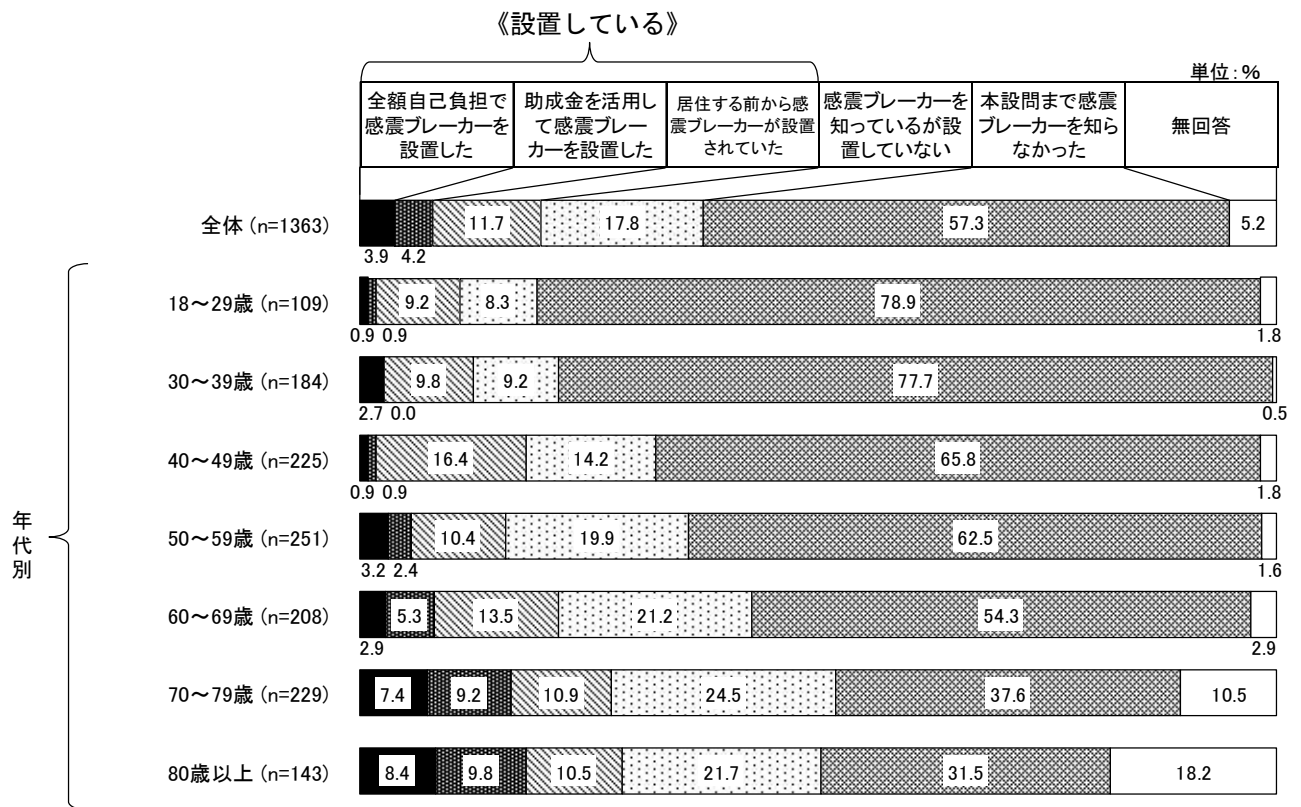


(注) 《設置している》 = 「全額自己負担で感震ブレーカーを設置した」 + 「助成金を活用して感震ブレーカーを設置した」 + 「居住する前から感震ブレーカーが設置されていた」

感震ブレーカーの設置状況について聞いたところ、「全額自己負担で感震ブレーカーを設置した」(3.9%)と「助成金を活用して感震ブレーカーを設置した」(4.2%)と「居住する前から感震ブレーカーが設置されていた」(11.7%)を合わせた《設置している》(19.8%)は2割弱となったが、「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」(57.3%)が5割半ばを超えている。

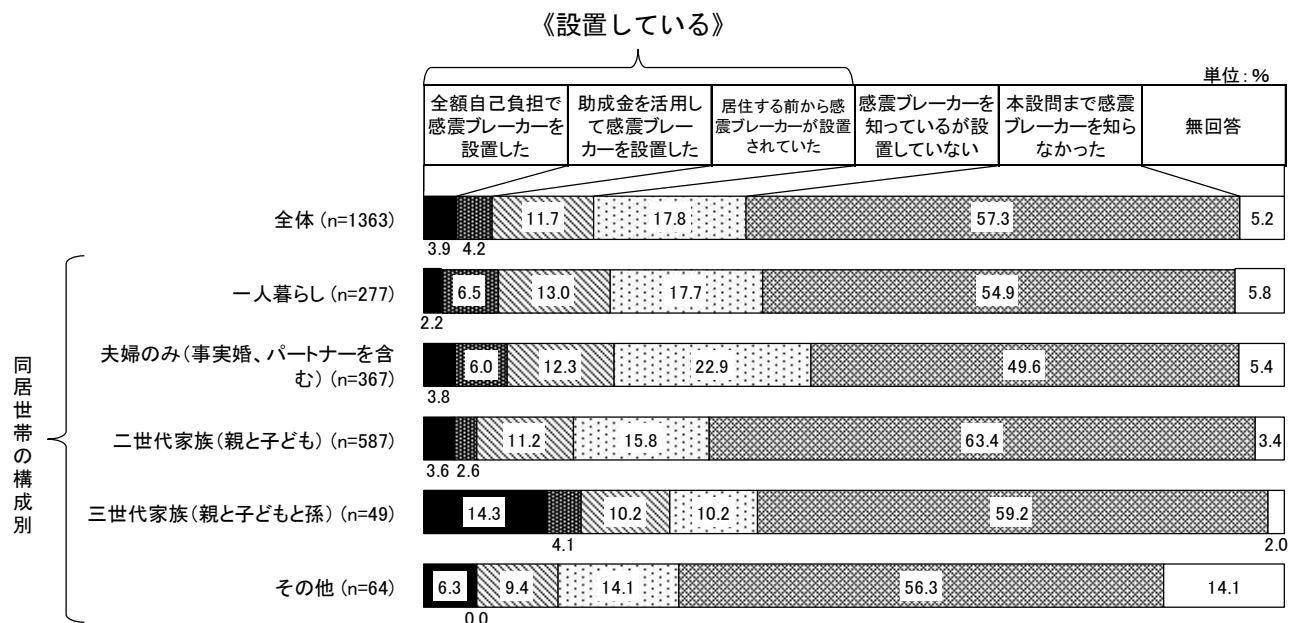
年代別でみると、《設置している》では、80歳以上（28.7%）が3割近くで最も高くなっている。「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」では18～29歳（78.9%）が8割近くと最も高くなっており、年齢層が低くなるほど割合が高くなっている。

### 感震ブレーカーの設置状況 年代別



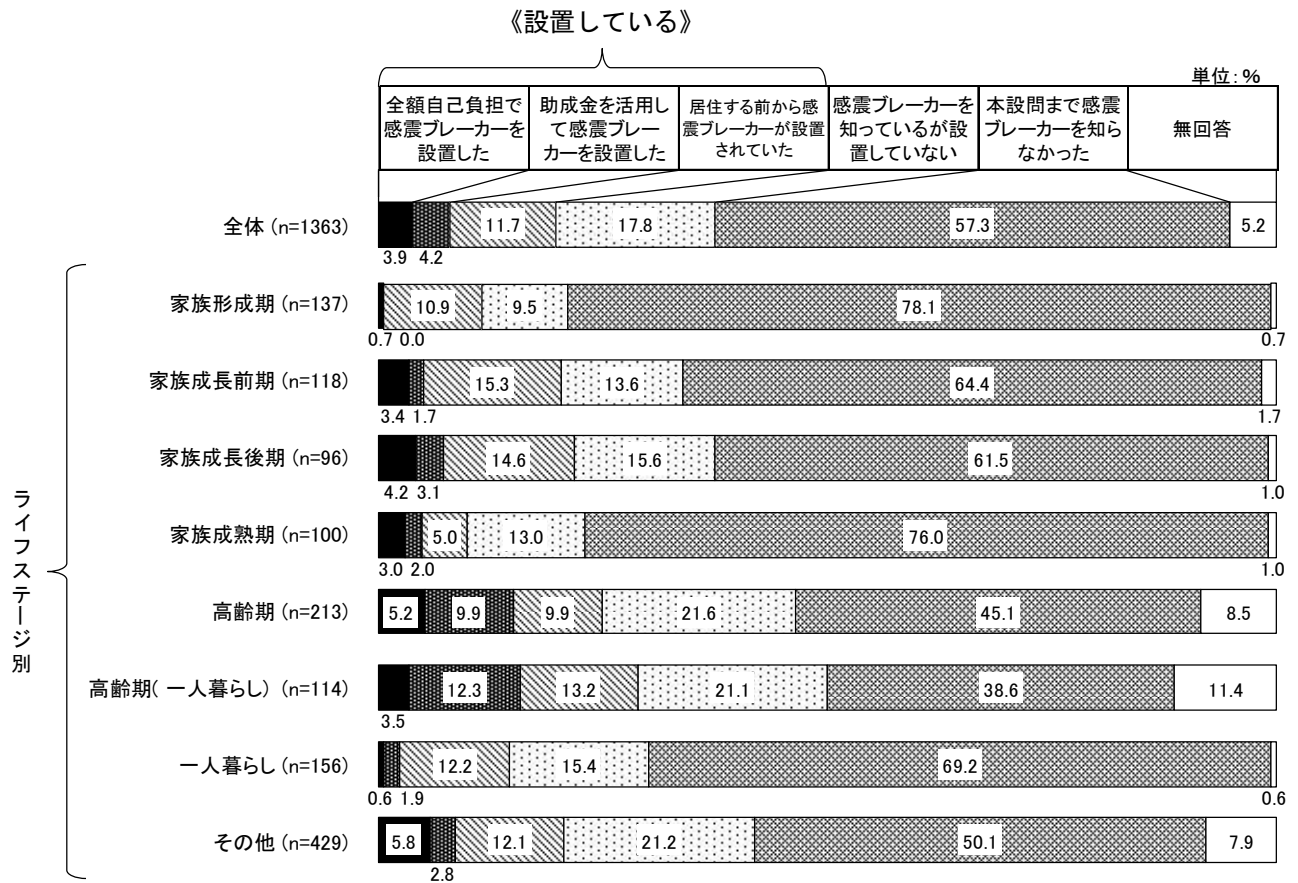
同居世帯の構成別でみると、《設置している》では三世代家族(親と子どもと孫) (28.6%) が3割近くで最も高くなっている。「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」では二世世代家族(親と子ども) (63.4%) が6割半ば近くで最も高くなっている。

### 感震ブレーカーの設置状況 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、《設置している》では高齢期（一人暮らし）（29.0%）が3割弱で最も高く、高齢期（25.0%）が2割半ばでこれに次ぎ、《高齢期》が比較的高い割合となった。一方、家族成熟期（10.0%）は1割と最も低くなった。

### 感震ブレーカーの設置状況 ライフステージ別

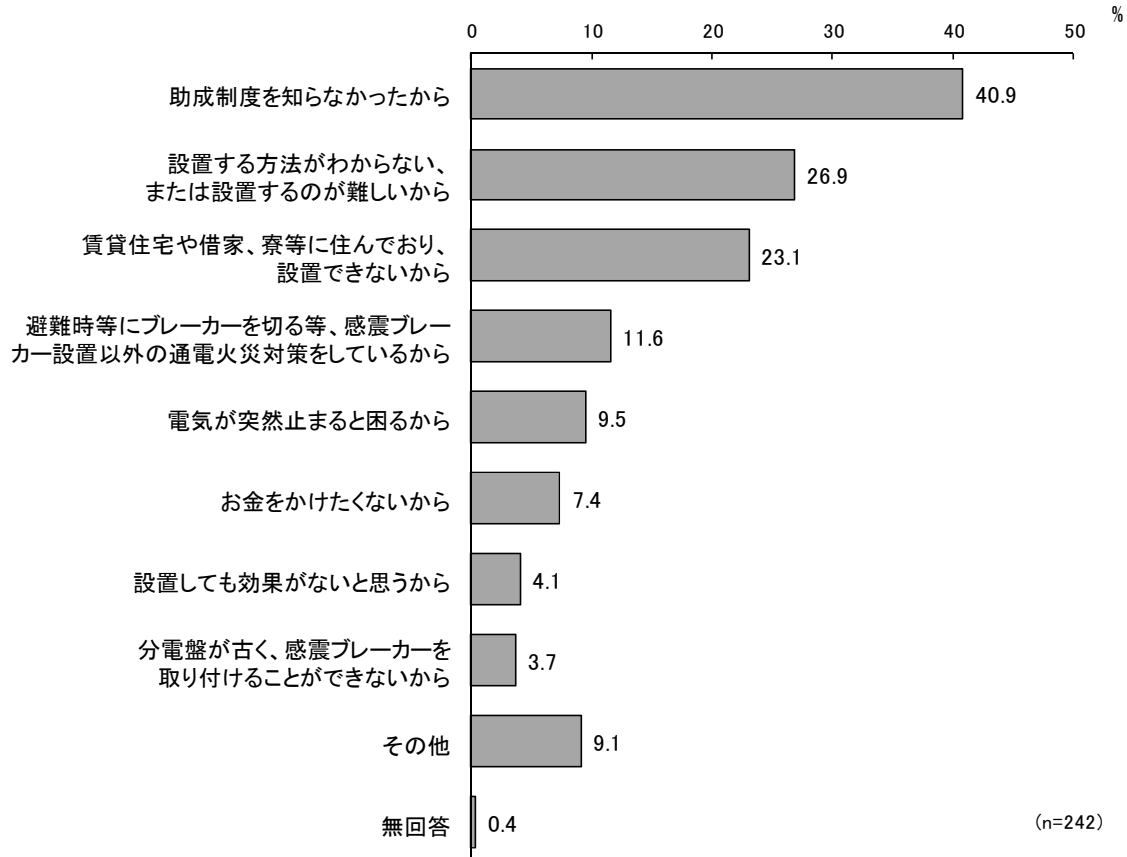


(3-1) 感震ブレーカーの未設置理由

◇「助成制度を知らなかったから」が4割

問 12-1 (問 12 で「4 感震ブレーカーを知っているが設置していない」とお答えの方にお伺いします。)

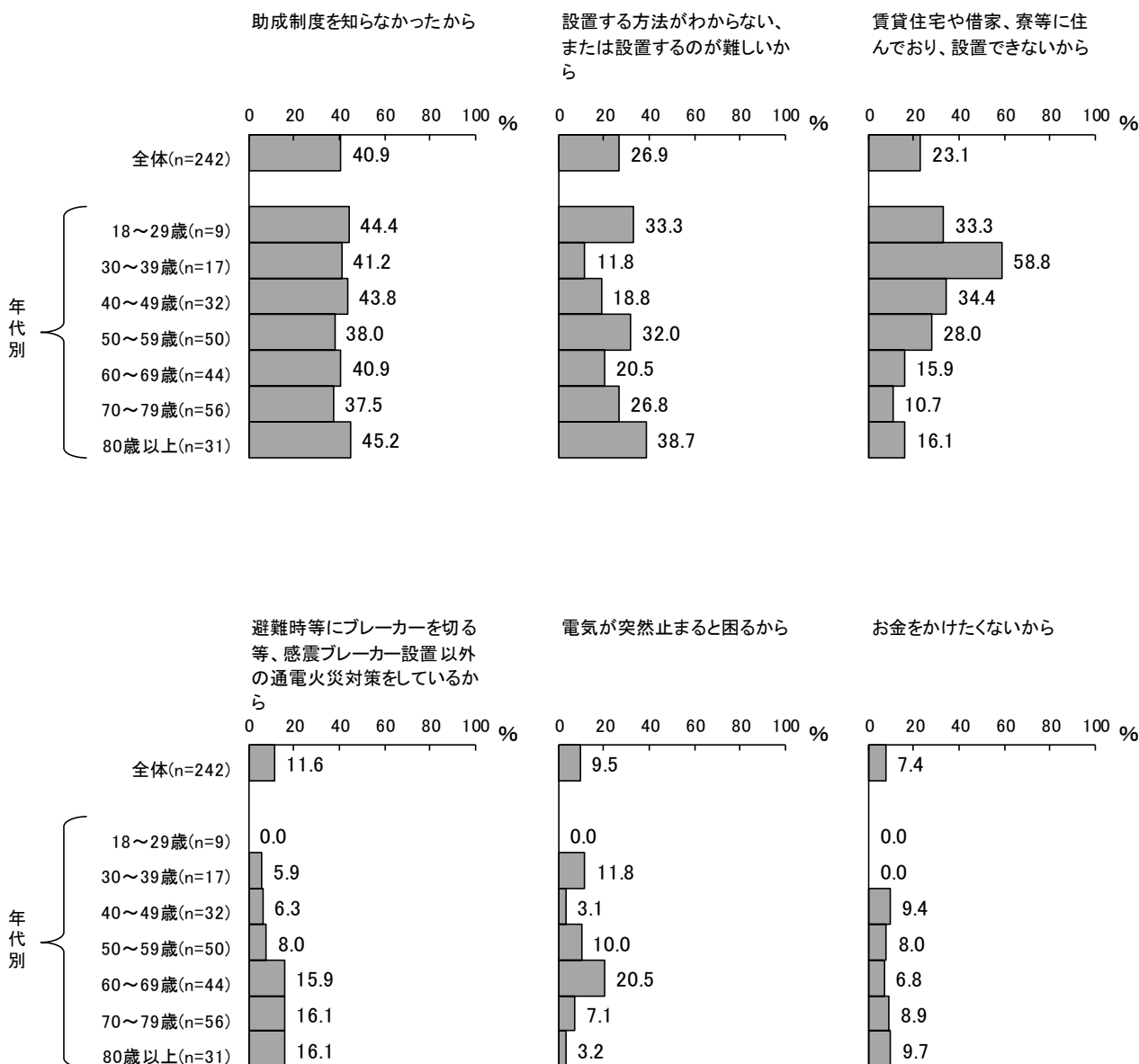
荒川区では感震ブレーカー等の設置について、5千円～10万円(条件有)の助成金が出る制度がありますが、「感震ブレーカー」を設置していない理由を次の中からお選びください。(〇はいくつでも)



感震ブレーカーの未設置理由について聞いたところ、「助成制度を知らなかったから」(40.9%)が4割で最も高く、「設置する方法がわからない、または設置するのが難しいから」(26.9%)が続いている。

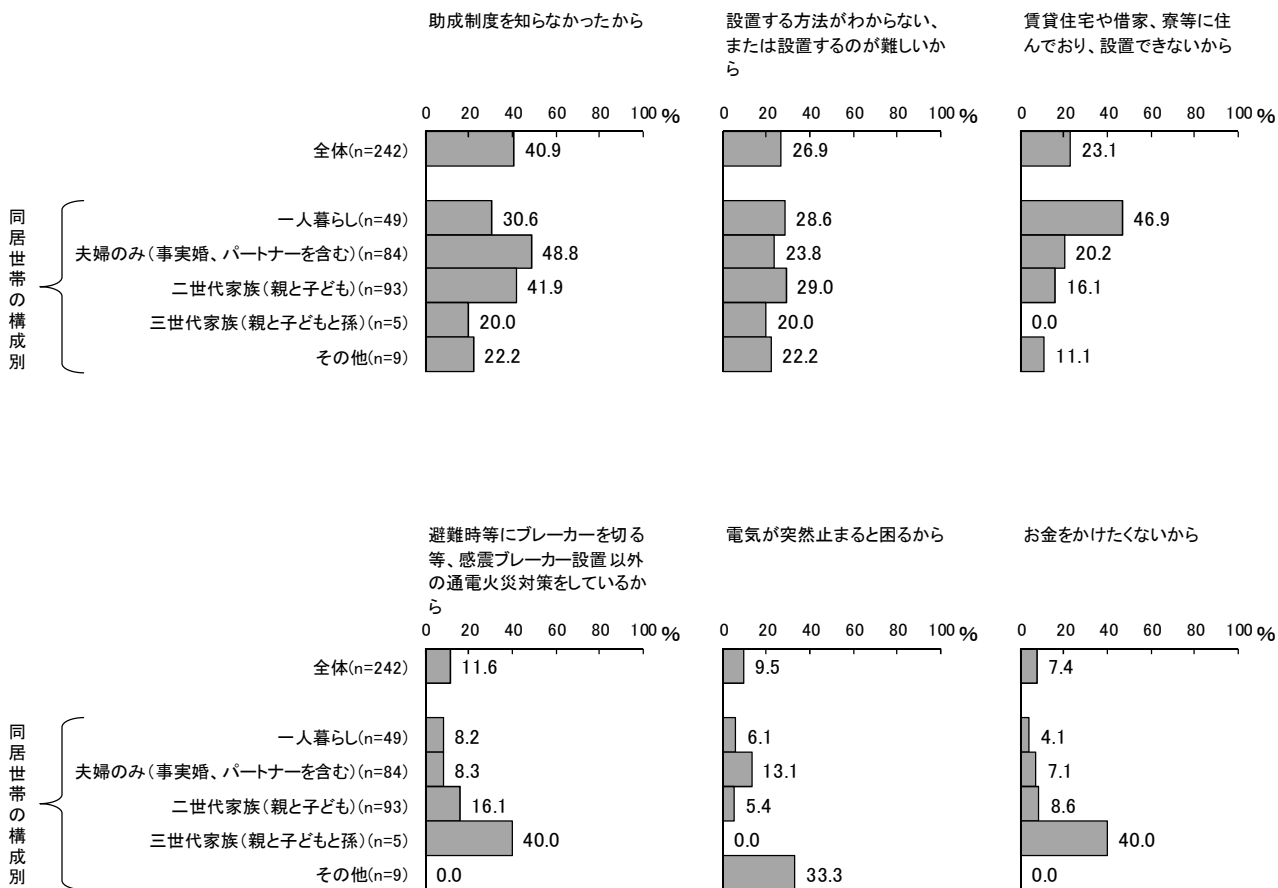
上位6項目を年代別でみると、「助成制度を知らなかったから」では80歳以上（45.2%）が4割半ば、「設置する方法がわからない、または設置するのが難しいから」では80歳以上（38.7%）が4割近く、「電気が突然止まると困るから」では60～69歳（20.5%）が2割と、それぞれ最も高くなっている。

### 感震ブレーカーの未設置理由（上位6項目） 年代別



上位6項目を同居世帯の構成別でみると、「助成制度を知らなかったから」では夫婦のみ（事実婚、パートナー含む）（48.8%）が5割近く、「設置する方法がわからない、または設置するのが難しいから」では二世世代家族（親と子ども）（29.0%）が3割弱、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、設置できないから」では一人暮らし（46.9%）が4割半ば超えと、他と比べて高くなっている。

### 感震ブレーカーの未設置理由（上位6項目） 同居世帯の構成別





(3-2) 感震ブレーカーの設置意向

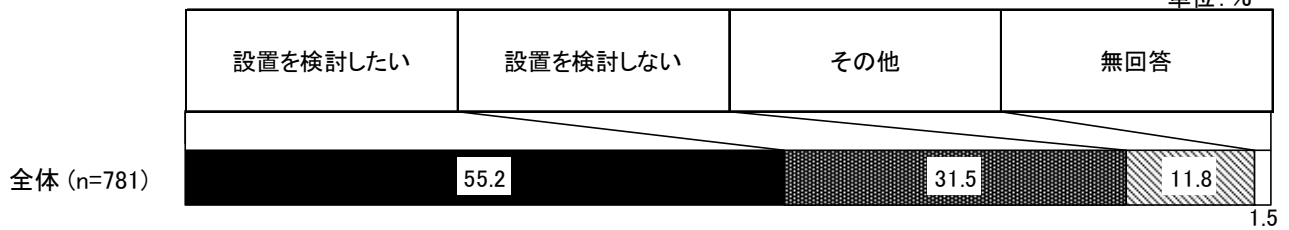
◇「設置を検討したい」が5割半ば

問 12-2 (問 12 で「5 本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」とお答えの方にお伺いします。)

感震ブレーカーにはいくつかの種類があります。電気工事が必要な分電盤タイプ(標準的なもので5~8万円ほど)やコンセントタイプ(標準的なもので5千円~2万円ほど)、電気工事が不要で簡単に取り付けられるタイプなど、仕組みや価格は多様です。

荒川区では感震ブレーカー等の設置について、5千円~10万円(条件有)の助成金が出る制度がありますが、上記を踏まえ、設置を検討したいと思いますか。(○は1つだけ)

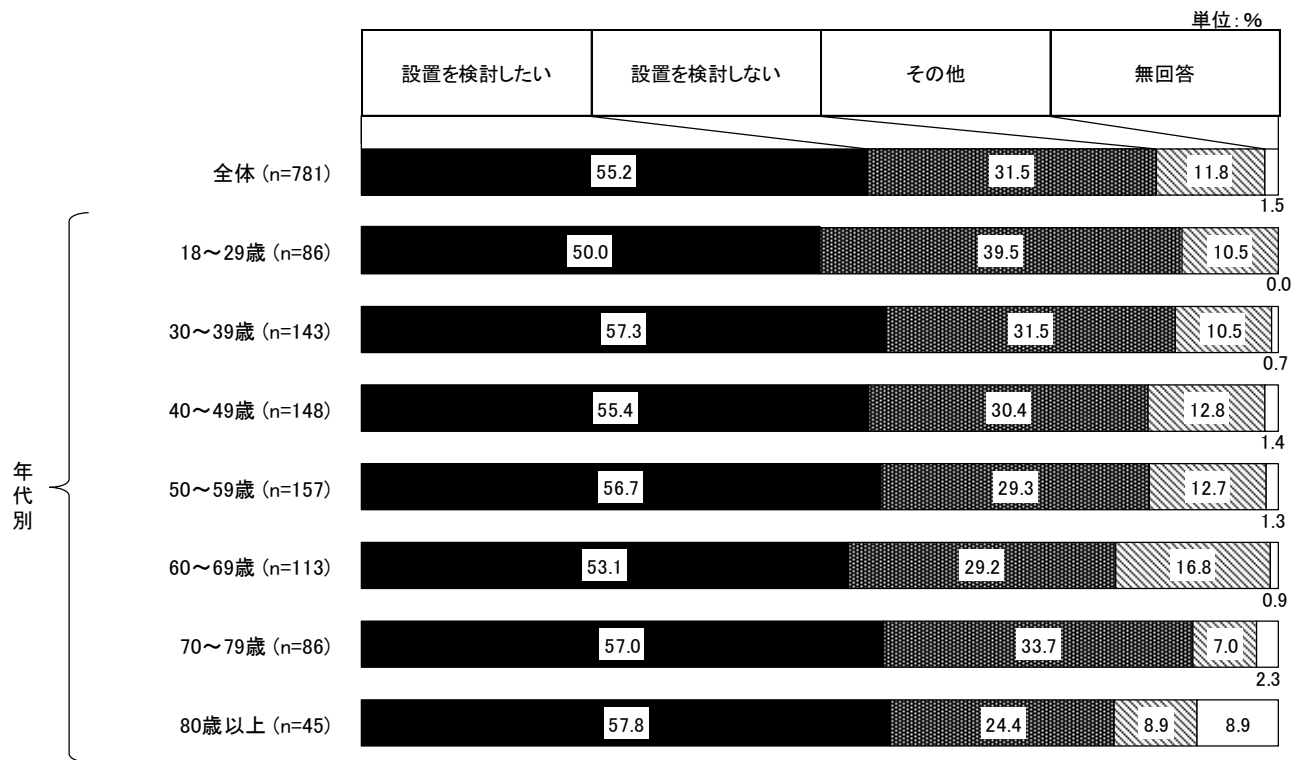
単位: %



感震ブレーカーの設置意向について聞いたところ、「設置を検討したい」(55.2%)が5割半ばで最も高く、「設置を検討しない」(31.5%)は3割強となっている。

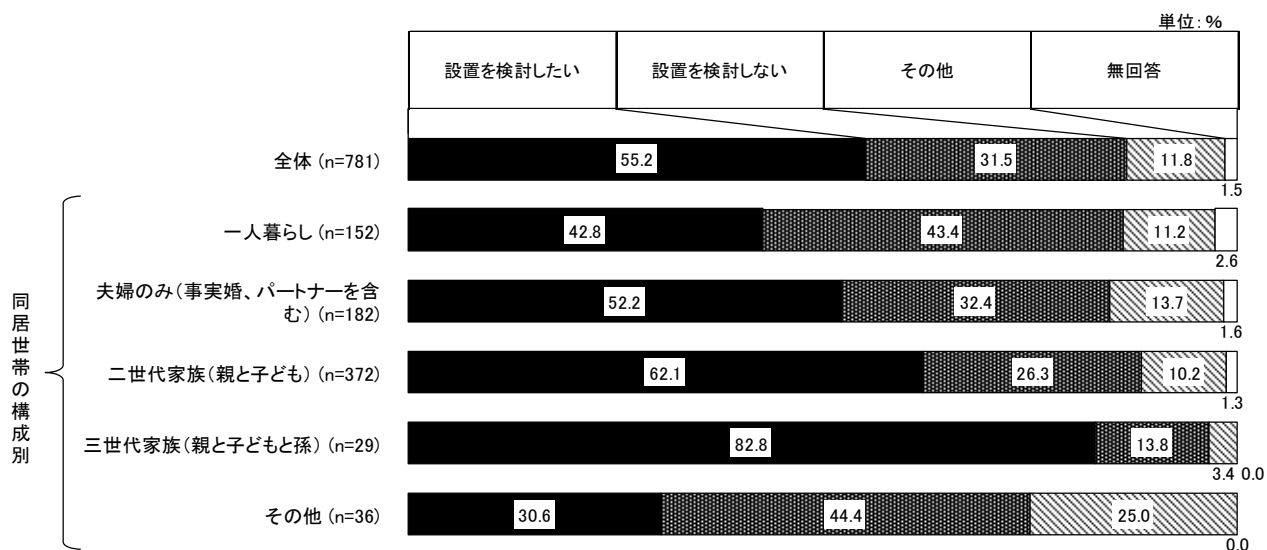
年代別でみると、「設置を検討したい」はいずれの年齢層で5割を超えている。「設置を検討しない」では、おおむね年齢層が高いほど割合が低くなっている。

感震ブレーカーの設置意向 年代別



同居世帯の構成別でみると、「設置を検討したい」では二世帯家族（親と子ども）（62.1%）が6割強、「設置を検討しない」では一人暮らし（43.4%）が4割半ば近くで、それぞれ高くなっている。

感震ブレーカーの設置意向 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、「設置を検討したい」では家族成長後期（64.4%）が6割半ば近くで最も高く、「設置を検討しない」では高齢期（一人暮らし）（47.7%）、一人暮らし（41.7%）の《一人暮らし》のみ4割を超えている。

感震ブレーカーの設置意向 ライフステージ別

